

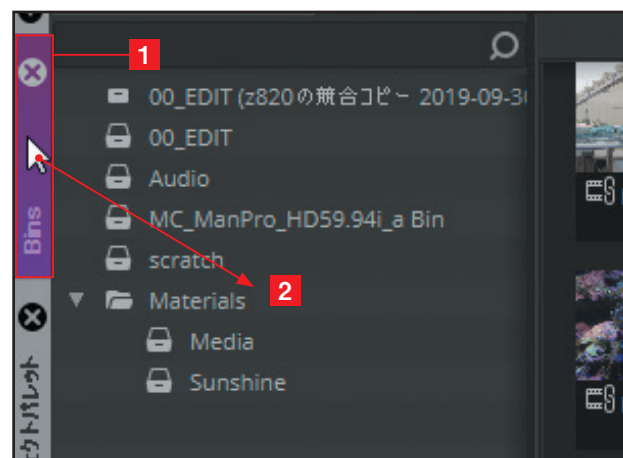
## 09

## ウィンドウをフローティング／パネル化する

ワークスペースの各ウィンドウは、ドック、タブの2つの方法でワークスペースにパネル化することができます。またパネル化したウィンドウは自由にワークスペースから切り離し(フローティング)できます。

## ▶ ウィンドウをフローティング化する

ウィンドウのフローティング化とは、ウィンドウをデスクトップから切り離す操作です。フローティングするウィンドウのパーティカルタイトルバーをドラッグします。

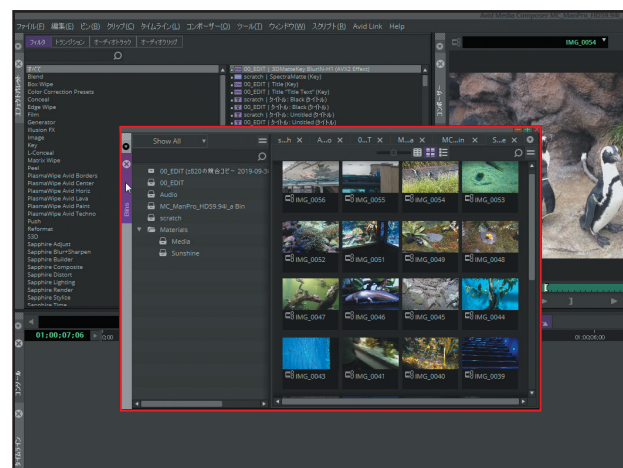


## 1 パネル化したウィンドウのフローティング

フローティングするウィンドウのパーティカルタイトルバーをクリックホールドし<sup>1</sup>、ウィンドウを軽くドラッグします<sup>2</sup>。背景のウィンドウに緑のバーが表示されたらマウスをリリースします(どの緑のバーにも重ならないようにします)。

## 2 ウィンドウがフローティング化する

必要に応じて、フローティング化したウィンドウの代わりに空白パネルが挿入されます。

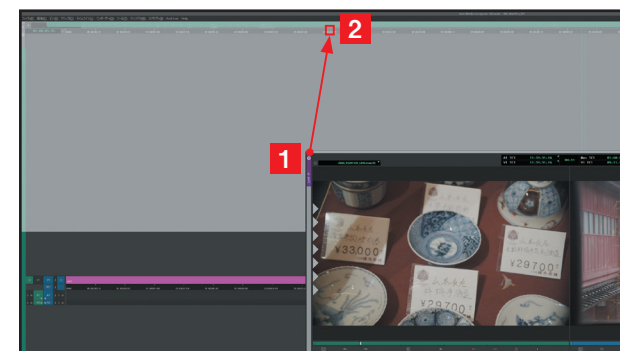


## POINT

パネル化しているウィンドウを全てフローティング化したいときは、アプリケーションメニューの<ウィンドウ>メニュー→<すべてのパネルをフロート>を実行します。

## ▶ ウィンドウをドック化する

フローティング化したウィンドウのパーティカルタイトルバーをクリックホールドし、ドック化したいグリーンバーに重ねます。

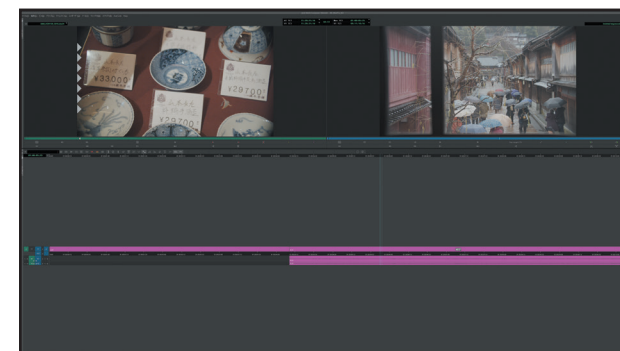


## 1 ウィンドウをドック形式でパネル化

フローティング化したウィンドウのパーティカルタイトルバーをクリックホールドすると<sup>1</sup>、アプリケーションデスクトップの各ウィンドウの4辺に緑のバーが表示されます。ドック化したい位置へウィンドウをドラッグし、ドラッグ先に白い四角形が表示されたら、マウスクリックを解除します<sup>2</sup>。

## 2 ウィンドウがパネル化する

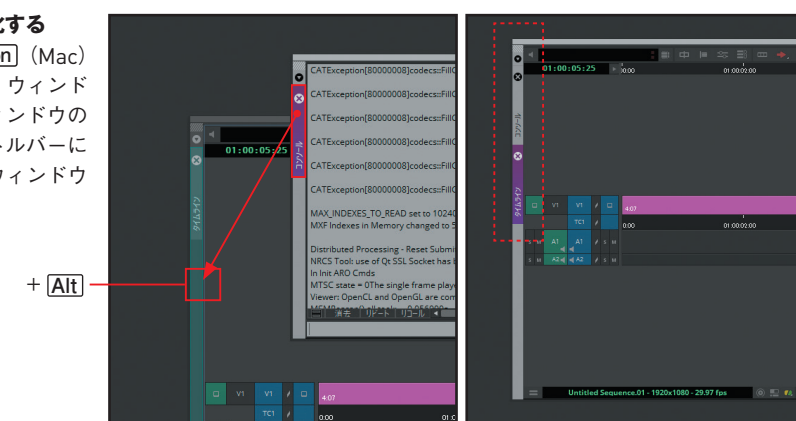
新たに追加したウィンドウによって、ワークスペースのウィンドウレイアウトが変わります。



## POINT

## ウィンドウをタブ化する

[Alt] (Win) / [option] (Mac) キーを押しながら、ウィンドウをターゲットウィンドウのパーティカルタイトルバーにドラッグすると、ウィンドウがタブ化します。



## POINT

パネル化したウィンドウのリサイズは、境界の上下左右ドラッグで行います。

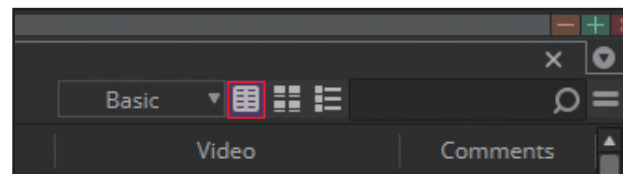
## 13

## ビンの表示モードを切り替える

Media Composerのピンは、<テキスト>、<フレーム>、<スクリプト>の3つのビューモードで表示することができます。<テキストビュー>モードでは、クリップが持つ様々なメタ情報をコラム形式で一覧できます。<フレームビュー>モードでは、クリップはマウスドラッグで上下左右自由に移動することができます。<スクリプトビュー>モードは、例えば台本(スクリプト)作成用に、ビデオとテキストを連携表示することができます。

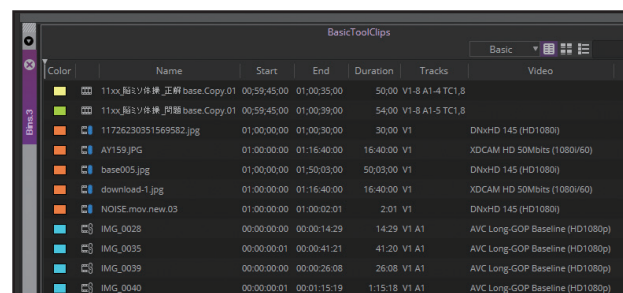
## ▶ ビン内容を&lt;テキストビュー&gt;モードで表示する

ここでは、ピン内容を<テキストビュー>モードで表示します。<テキストビュー>モードで表示するには、<ピン>の<テキストビュー>ボタンをクリックします。



## 1 ビューモードを変更する

<ピン>または<ピンコンテナ>に表示中のピンで、<テキストビュー>ボタンをクリックします。



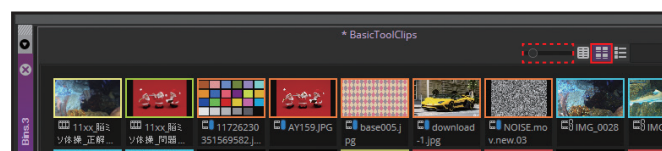
## 2 テキストビューモード表示になる

テキスト表示モードになります。

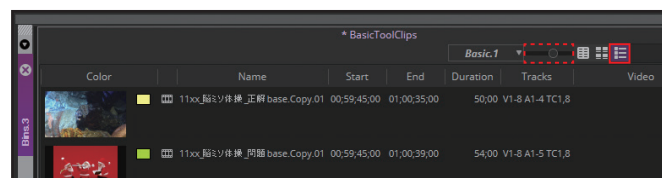
## POINT

## &lt;フレームビュー&gt;と&lt;スクリプトビュー&gt;

<フレームビュー>ボタンをクリックすると、ピン内のクリップが、フレームで表示されます。また、<スクリプトビュー>ボタンをクリックすると、スクリプト表示に変更されます。フレーム表示、スクリプト表示のとき、ビューモード切り替えボタン横にあるスライダーでサムネイルサイズが拡大・縮小します。



▲フレームビュー



▲スクリプトビュー

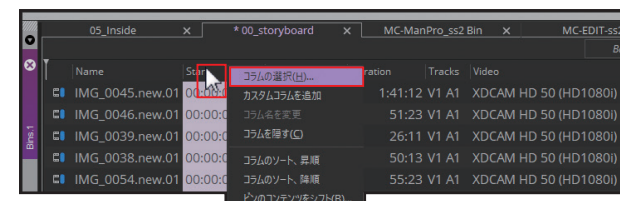
## 14

テキストビューの  
コラムをカスタマイズする

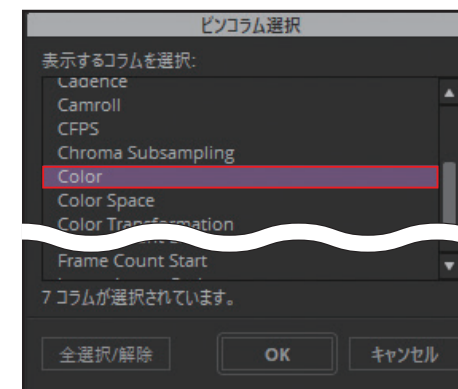
<テキストビュー>で表示するコラムは、カスタマイズによって必要な情報のみを選択することができます。

## ▶ “Color”コラムを追加する

<テキストビュー>への表示コラムの追加は、<コラムを選択>コマンドで行います。

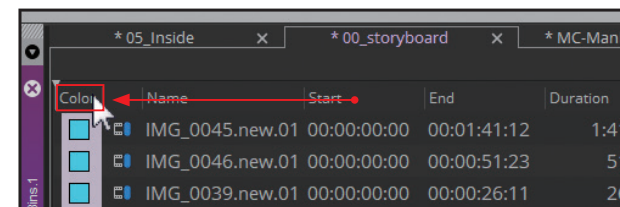
1 <ピンコラム選択>  
ダイアログを開く

<ピン>のコラムエリアにカーソルを移動し、<コンテキスト>メニュー→<コラムの選択>コマンドを実行します。



## 2 コラムを選択する

オープンした<ピンコラム選択>ダイアログのリストをスクロールし、“Color”コラムを選択します。

3 “Color”コラムが  
追加表示される

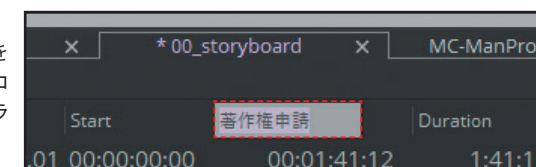
追加コラムは、<コラムを選択>コマンドの実行箇所に挿入されます。コラム位置を移動したいときは、コラム名をクリックドラッグします。

表示中のコラムは、<コラムを隠す>コマンドで非表示にできます。

## POINT

## カスタムコラム

<コンテキスト>メニュー→<カスタムコラムを追加>コマンドを実行すると、ユーザー作成のコラムが追加できます。コマンドを実行して、コラム名を入力します。





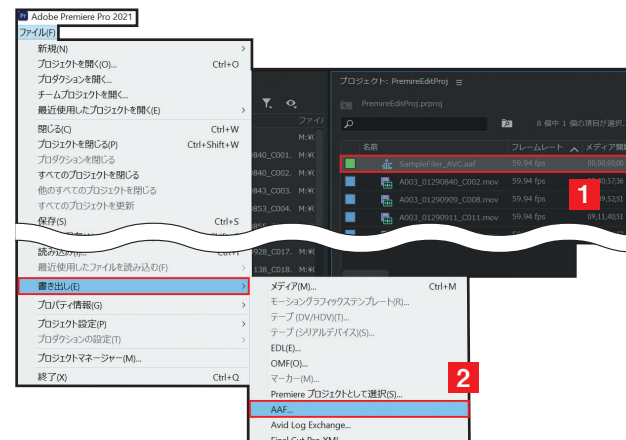
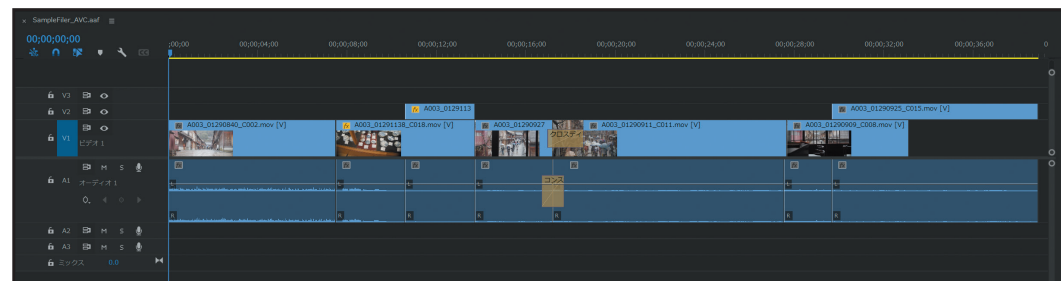
# Premiere Pro で編集した シークエンスを再現する

Premiere Pro で編集したシークエンスは、Media Composer 上に再現することができます。

## ▶ Premiere Pro でシークエンスをエクスポートする

まず Premiere Pro からシークエンスをエクスポートします。その際には Premiere Pro で書き出し | AAF > コマンドを使い、シークエンスを AAF 形式でエクスポートします。

Premiere Pro 上のシークエンス

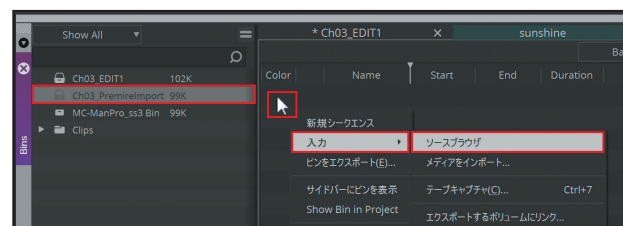


### 1 AAF ファイルを エクスポートする

Premiere Pro の <プロジェクト> ウィンドウでエクスポートするシークエンスを選択し **1**、アプリケーションメニューの <ファイル> メニュー → <書き出し> → <AAF> コマンドを実行します **2**。ダイアログがオープンしたら、AAF 出力するファイル名を指定しファイルを保存します。

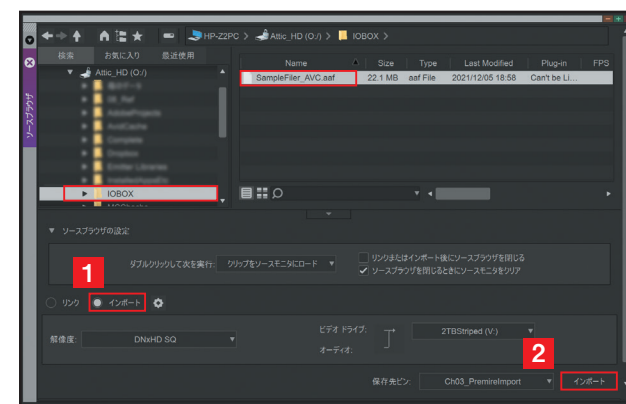
## ▶ Media Composer でシークエンスの AAF ファイルをインポートする

Premiere Pro でエクスポートした AAF ファイルは、<インポート> コマンドによって Media Composer に読み込みます。



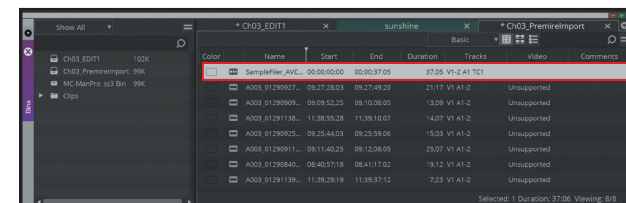
### 1 <ソースブラウザ> で インポートする

<ビン> ウィンドウの <コンテキスト> メニュー → <入力> → <ソースブラウザ> コマンドを実行します。



### 2 <インポート> ボタンを 押す

<ソースブラウザ> をインポートモードに設定し **1**、Premiere Pro で出力した AAF ファイルを選択して <インポート> ボタンを押します **2**。



### 3 シークエンスが 作成される

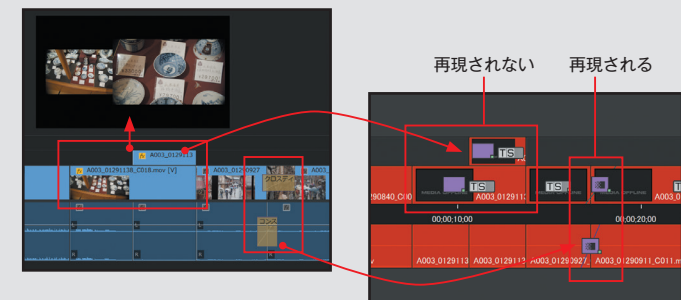
インポートの結果、<ビン> にシークエンスと、シークエンスに使われているクリップが生成されます。



シークエンスを <タイムライン> にロードすると、Premiere Pro のシークエンスが再現されていることが分かります。

## CHECK

Premiere Pro で掛けたエフェクトは、ディゾルブなどのエフェクト以外は継承されず、未知のエフェクトとして表示されます。



## 18

## ソースクリップが使われている箇所を見つける ~逆マッチフレーム

<逆マッチフレーム>ボタンコマンドは、ソースモニターに表示されたフレームが、シークエンスで使われている箇所を検索し、そのフレームまでジャンプするコマンドです。シークエンスの中で何回も使われている素材を、繰り返し検索したいときに便利です。

## ▶ 逆マッチフレームを実行する

<逆マッチフレーム>は、ソースモニターに検索したいフレームを表示し、コマンドを実行します。



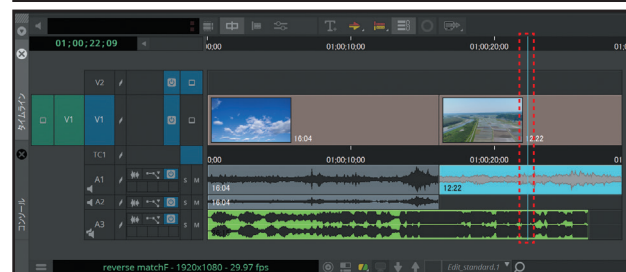
## 1 コマンドを実行する

<コンポザー>のソースモニターにクリップをロードし、検索したいフレームにポジションインジケータを合わせ**1**、<逆マッチフレーム>**2**を実行します。



## 2 逆マッチフレームが作動する

シークエンスに合致するフレームが含まれる場合、レコードモニターのポジションインジケータがそのフレームに移動し、モニターに表示されます。



## 19

## コンポザーからクリップとシークエンスのビンを検索する

<コンポザー>のモニターにロード中のクリップがあるビンをオープンすることができます。

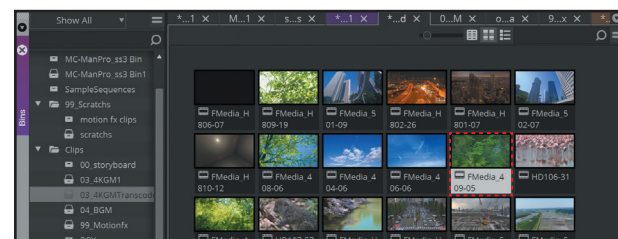
## ▶ クリップやシークエンスが保存されたビンを表示する

<コンポザー>にロード中のクリップやシークエンスが保存されているビンを開くには、<ビン検索>ボタンコマンドを使用します。



## 1 &lt;ビン検索&gt;を実行する

ソースモニターにクリップがロードされている状態で、<ビン検索>を実行します。



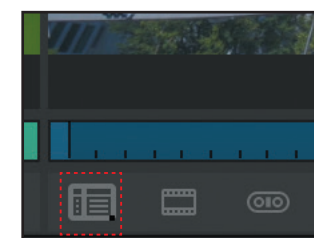
## 2 ビンが表示される

クリップが保存されている<ビン>がオープンし、対象クリップがハイライトします。

## POINT

## "Alt" オプション付きの&lt;ビン検索&gt;

レコードモニター側に、"Alt" オプション付きの<ビン検索>ボタンコマンドを割り付けると、シークエンスからダイレクトに、編集されたクリップがあるビンを開くことができます。コマンドは、ポジションインジケータ位置にあるトラック選択パネルがオンのクリップに対して動作します。



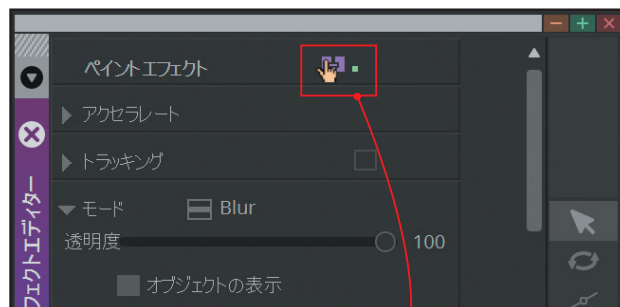
## 07

## エフェクトを保存する

パラメータをカスタマイズしたエフェクトは<ピン>に保存することができます。

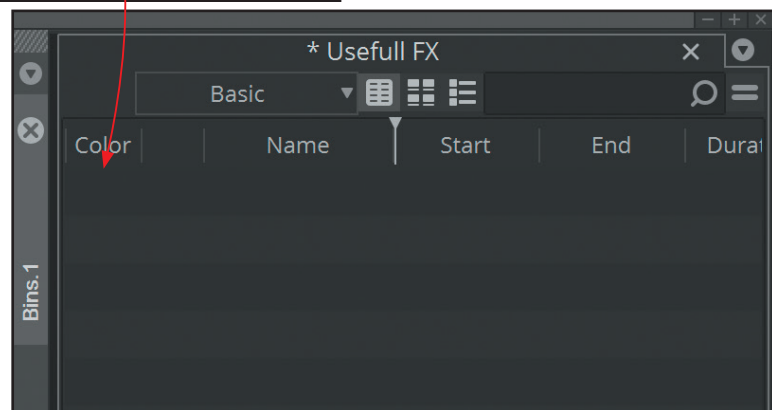
### シークエンスに掛けたエフェクトを<ピン>へ保存する

再利用するためにエフェクトを保存するには、<エフェクトエディター>のアイコンを<ピン>へドラッグします。



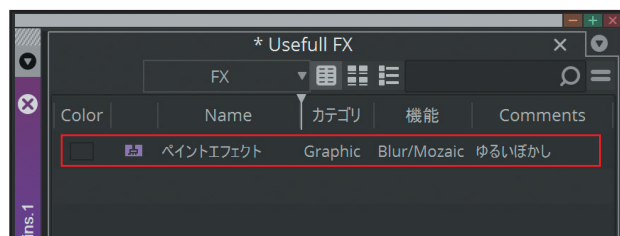
#### 1 <エフェクトエディター>のアイコンをドラッグする

P.243 を参考に、エフェクト編集モードに入ります。<エフェクトエディター>のエフェクトアイコンを保存先の<ピン>にドラッグ&ドロップします。



#### 2 エフェクトが<ピン>に保存される

<ピン>に保存したエフェクトは、<エフェクトエディター>でカスタマイズしたパラメータも保存されます。



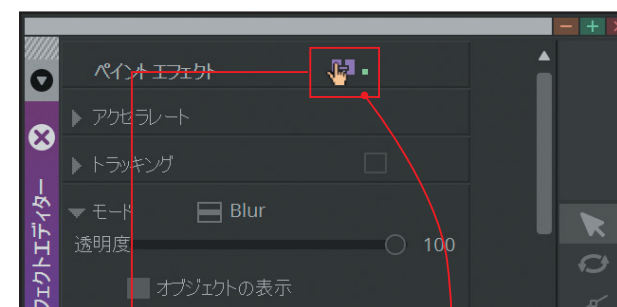
## POINT

#### エフェクトをピン検索しやすくする

エフェクトを保存するピンは、カスタムコラムを追加してエフェクトを分類すれば、ピン検索機能でエフェクトの絞り込みが行いやすくなります。

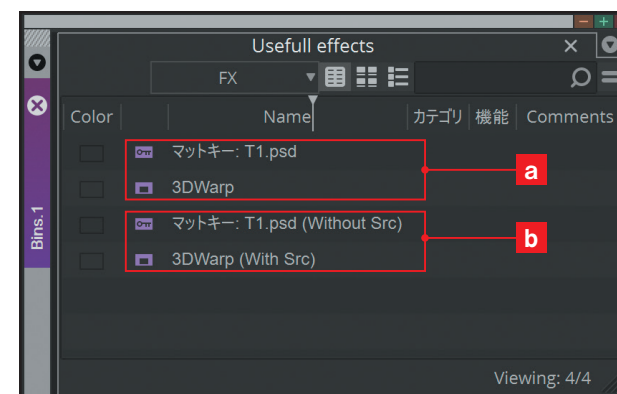
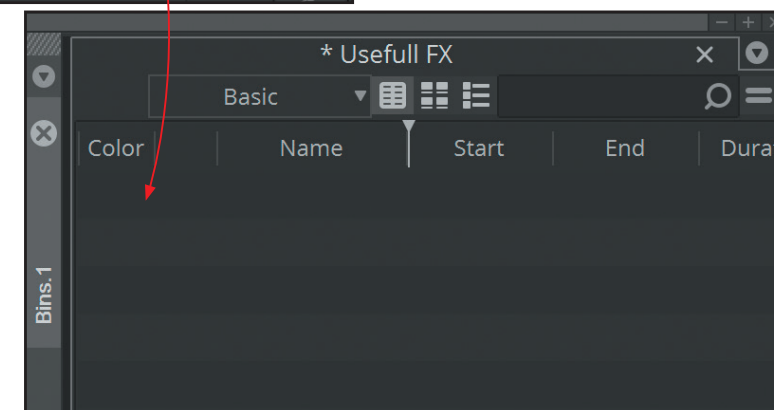
### ソース付き／ソースなしエフェクトとして保存する

エフェクトを<ピン>に保存するとき、ソースを持たないエフェクトをソース付きエフェクトとして保存したり、ソースを持つエフェクトのモーションのみ（ソースなしエフェクト）を保存したりできます。



#### 1 <エフェクトエディター>のアイコンをドラッグする

[Alt] (Win) / [option] (Mac) キーを押しながらエフェクトアイコンを<ピン>にドラッグ&ドロップします。



a 通常のドラッグ&ドロップ操作

b オプション付きドラッグ&ドロップ操作

#### 2 エフェクトがピンに保存される

3Dワープのように通常のドラッグ&ドロップ操作でモーションが保存されるエフェクトは、オプション操作で、ソース付きエフェクトとして保存されます。

反対にマットキーエフェクト（外部アプリで作成したテロップ）は、通常操作でソース付きエフェクトが保存できますが、オプション操作ではモーションのみのエフェクトとして保存されます。

## POINT

ソースを持つエフェクトクリップはソースモニターにロードして、普通のクリップとして編集できます。